

総括質問

本市議会では議案への質疑と、市政などを問う一般質問を合わせて行い、それを「総括質問」としています。今定例会では、14人の議員が総括質問を行いました。質問者の文責により質問と答弁の要旨を紹介します。

★詳しい質問内容は、会議録をご覧ください。

清風クラブ



異次元の少子化対策
夢や希望のある未来に向けて
野崎 審也 議員

低所得世帯への経済対策

問 低所得世帯支援事業の内容を伺う。

健康・こども部長 対象は住民税均等割非課税世帯などを予定している。支給対象は令和5年12月1日に本市に住民登録を有している者である。夏に3万円の給付を受給した世帯は手続き不要のプッシュ型で行う。

問 夏の給付では、約3千人が受給できていない。今回は7万円と高額であり、一人でも多くの低所得世帯が受給できる方法を検討できないか伺う。

福祉部長 広報ひらつかでの周知や公民館などへの申請書の配架、勸奨はがきの送付回数を増やすほか、ボランティアによる声掛けなどを考えている。

（仮称）次期平塚市
総合計画
（1次素案）

問 これからのまちの姿や

方向性を伺う。

市長 現在策定中の（仮称）次期平塚市総合計画（1次素案）では、自治基本条例に定める「市民が幸せに暮らすまち」を指す。計画の推進にあたっては、本市の魅力を発信するシティプロモーションを積極的に展開することなどをまちづくりの基本姿勢とする。同時に、バックキャストイング思考により、未来志向の政策を展開し、持続可能な行政運営を進める。

問 まちづくりには複雑、複合化された課題が多くある。市長自ら先頭に立ち企業セールのすることをまちが変わると思うが、市長の意気込みを伺う。

市長 就任早々からまちの魅力を高めるために先頭に立ち、市内の各企業を廻ってきており、今後も続けていきたいと考えている。

少子化への対応と結婚支援

問 本市は8年連続人口の

社会増が続いているが、今年はいかがか。

市長 平成27年から8年連続で社会増となっている。令和5年10月までの時点で、昨年より多い2339人の社会増となっており、さらなる少子化対策に取り組んでいく。

問 婚姻数は22年前と比べて897組と半減し、出生数も減少している。結婚支援に対する考えを伺う。

市長 国の少子化社会対策白書によると、独身でいる最も多い理由は、適当な相手に巡り合わないことである。最近では、企業も婚活支援をしているとの報道もあるため、行政としても結婚支援の在り方を判断する必要がある。検討している。

問 七夕まつり実行委員会のイベント部会で婚活支援ができないか伺う。

産業振興部長 実行委員会の中でアイデアを出してもいい、議論してもらえればと考える。

魅力あるまちづくり

問 龍城ヶ丘の海岸整備の進捗状況を伺う。

都市整備部長 令和5年2

月に県警との交通協議を、11月には県との海岸占用協議が終了した。現在、行政手続きや詳細設計を進めている。

問 対話は賛成・反対を自由に発言ができる場とすべきと思うが見解を伺う。

都市整備部長 さまざまな立場の人が自由に発言できるように、現在自治会長と開催方法を協議している。

問 市長は以前から着工前

には住民に説明するとしていますが、いかがか。

市長 県との海岸占用協議も終わったので、市民への説明の機会を設けていきたいと思っている。

問 本事業に対する市長の思いを伺う。

市長 高齢者や子ども、障がい者など誰もが海の魅力を享受し、他市からの利用も見込める海辺の総合公園の実現に向け進めていく。



子ども達の未来のために
数田 俊樹 議員

通学路の安心安全

問 通学路上のブロック塀の確認を強化するべきだと考えるが見解を伺う。

まちづくり政策部長 現在把握している危険箇所は104件ある。こちらは、所有者への戸別訪問やポスターリングなどを行い、更なる改修に向けて依頼をしている。新たな危険箇所については、地域の情報提供などを基に、担当課で現地確認をしながら、改善に向けて進めていきたい。

街路樹をより適正に管理するために

問 樹木医による街路樹の

沿道清掃などの課題もあることを考えると、方針を立てて、街路樹の管理計画をしっかり策定していく必要があると考えるが、見解を伺う。

土木部長 樹木の成長は路線や時期によって変わるため、現段階では具体的な計画は難しいと考えているが、指針の策定に向けて検討していきたい。

ドローンを活用した地域防災力向上へ

問 防災力向上のため、ドローンを所有、または国家資格保有者がいる法人と防災協定を締結するべきだと考えるが見解を伺う。

副市長 災害発生時には操縦士を派遣してもらい、情報収集や支援物資を輸送してもらうことなどが期待される。また、平時には、ドローン操縦の国家資格など、法改正に関する情報提供や本市の運用に対する支援をしてもらうことなどが考えられるため、協定締結は、令和5年度内に進めていく。

問 国は、山間地などの無人地帯でのドローン利用の規制緩和を示し、さらにスピード感をもって活用を進めていくとの見解を示している。本市でも、人口密集地帯ではない地域で積極的に実証実験を行うべきと考えるが見解を伺う。

副市長 大規模災害の際に人口密集地帯ではない地域に立ち入れなくなった場合などを想定し、ドローンを活用した訓練を行っている。

1面掲載写真を募集しています

市内に在住又は在勤・在学の方を対象に、市内を撮影した四季折々の風景など、平塚市の魅力あふれる写真を募集しています。

今回は、第232号（令和6年5月3日発行）に掲載する写真を募集します。

詳しい応募方法などは、市議会ホームページをご覧ください。お問い合わせは、議会局までお問い合わせください。

（議会局 ☎21-8791）



声や点字の議会だより

目の不自由な方に市議会の活動をお伝えするため、議会だよりの内容を朗読した「声の議会だより」を発行しています。また、点字版も発行しています。

ご希望の方は議会局までご連絡ください。

問い合わせ
議会局 ☎21-8791



デジタル教育の推進

問 令和5年度に、金目中学校が文部科学省の生成AIパイロット校の内定校に指定された。期待される効果と、モデル校としての期待を伺う。

学校教育部長 金目中学校の具体的な取り組みは、教育活動での活用として、国語科では、生徒が発表スライドを作成する際に、新しいアイデアの創出に生成AIを活用している。音楽では、生徒が作詞をし、生成

AIが作曲して曲を作り上げていくようなことを取り組んでいる。本市での生成AIのモデル校設置については、現段階では新たな計画はないが、生成AIを学校に、より効果的に取り組むために、モデル校を設置した方が効果的ではないかと判断した場合には、しっかりと検討していきたいと考えている。

このほかの質問 自転車用ヘルメットの着用 旧相模小学校の活用 平塚市文化芸術ホールの管理運営